# 資　　料

2019 年度事業計画

2019 年 4 月 1 日

公益財団法人日本セーリング連盟

# 2019 年度 JSAF 実行計画と基本方針

セーリングは、他種目とは違い、自然環境の中で、道具(艇+セール)を操ることで競技するスポーツである。定められたルールに基づき、風向や風速などの変化を素早くキャッチし、セールトリムなどの操船技術を駆使して、それを最大限に活用できるコース選択を即時に判断する、すなわち総合人間力を発揮できるスポーツである。

## 【基本方針】

・セーリングスポーツの、より一層の普及・振興・発展のために、スポーツとしてセーリングを行っている各セーラーのセーリングスキルのみならず、人間力を向上させることで、スポーツ・インテグリティを向上させる。
・また、2020 年に向け、今までセーリングに関わりのなかった人々に対しても、広くセーリングの魅力について普及啓発し、安全で快適なスポーツおよびレジャーとして、セーリングを発展させるとともに、セーリングスポーツ及び JSAF を応援していただく個人・企業・団体を拡大する。
・東京 2020 オリンピックメダル獲得に向けた選手強化は勿論、次世代を担う選手と、それに関係する指導者やスタッフの育成強化を図るとともに、東京 2020 オリンピックやパラワールド開催成功に向け、テストイベント及びワールドカップ・シリーズなどの、レースやイベント運営にかかわる人材の確保と育成を図る。
・World Sailing の『持続可能性アジェンダ 2030』に連動し、日本セーリング界の持続可能性活動を開始する。

## 【実行計画】

**1．セーリングスポーツの普及、発展と安全確保**

（1）JSAF 主催大会の確実なる成功
・国体、国体リハーサル大会、ジャパンカップにおいて、安全で、かつセーラーが満足できる大会の実施

（2）国際ルールの国内における維持及び管理
・World Sailing が発行する RRS や ERS など様々な国際ルールの翻訳、および展開

（3）レースオフィシャルズの養成による国内大会の質の維持・向上
・レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開

（4）選手と共に成長し続ける指導者の育成
・選手の成長と安全担保を目指す「JSAF 指導者育成体系」に則った指導者の育成と指導ガイドの展開

（5）アンチ・ドーピング（AD）活動の推進
・Top アスリートからユースまで選手/指導者に AD 活動の必然性や具体的違反に関する啓蒙教育の強化

（6）スポーツ・インテグリティの向上
・ジュニア・ユース選手/指導者を対象としたスポーツマンシップ、シーマンシップ教育の強化と環境

保全への取組による社会貢献

（7）セーフティ・セーリングの推進

・事故報告書の収集・分析、事故予防に関する各団体メンバーへの情報および教育の展開

・桜マーク付ライフジャケット着用義務化に伴うセーラーへのライフジャケット着用推進

・レース運営艇、コーチボート等関係船舶の安全管理の徹底のための情報展開

（8）外洋レース、大型艇レースの活性化

・小笠原レース、パラオ・レース、パールレース、アリランレース、ジャパンカップ、NYYC インビテーショナルカップなど国内外の外洋レースの振興・発展

・外洋艇種目の 2019 世界選手権、2024 オリンピックに向けた早急な体制整備と海外派遣システム強化

・学生マッチをキッカケとした若手大型艇会員の拡大と 2024 に向けたキールボート選手の育成強化

（9）障がい者セーリングの普及、推進

・2020 年 PARA ワールドに向けた準備推進

・普及・強化拠点を中心とした障がい者セーリングの発展・振興

・パラリンピックのセーリング競技復活への働きかけ推進

(10) セーリングファンの開拓

・セーリング未体験者への普及推進および地域住民を巻き込んだセーリングイベントの展開

・ボートショーなどのイベントによるメディア等への露出機会の増加や訴求

・ターゲットを明確にした公式サイト改定や SNS の活用によるセーリングスポーツの認知度向上

・新しいセーリングファンをつくるために e-sailing（ゲーム）やバーチャルリアリティ（VR）、AI 分析などの新テクノロジーの活用推進

**２．東京 2020 に向けた選手の更なる国際競争力の強化**

（1）ナショナルチーム（選手・コーチ・スタッフ）の強化

・東京 2020 オリンピックに向けて、アスリートセンタードなサポート強化とコーチ/スタッフ支援

（2）ジュニアユースセーラーへの幅広い活動支援

・2024 オリンピック・パラリンピックに向けて、ユース世代/次世代セーラーへの育成・支援

（3）オリンピックテストイベント、ワールドカップシリーズなどの各種国際大会の成功

・海外から参加する選手たちが満足できるように、日本開催の国際大会でのレースオフィシャルズ(レース・マネジメント、ジュリー、メジャラー)の更なるレベルアップ促進

・「日本一周フラッグリレー」などによる 2020 に向けたセーリングスポーツ支援意識の高揚

**３．メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成**

（1）公益財団法人としてのガバナンスの強化、社会規範やコンプライアンスの遵守

・専門委員会の事業活動活性化とコンプライアンス担保の両立に向けたガバナンス強化

・理事会・評議員会の活動活性化を目指す情報管理システムの強化

・様々な活動を支える財政基盤の強化

（2）加盟団体/特別加盟団体と一体になったビジョン/中長期計画の策定

・将来にわたってセーリングスポーツを振興するため、加盟団体/特別加盟団体と JSAF が一体になって推進できる普及、競技力向上、組織強化を柱にしたビジョンや中長期計画の策定

（３）情報システムのセキュリティ対策

・JSAF が管理する情報システム等（JSAF 公式サイト、会員管理システム、加盟団体サイト）のサイバーセキュリティ上の脆弱性の検証と対策の実施

（４）会員管理システムのサービス向上

・会員管理システムの情報の管理内容の充実やタイムリーなメンテナンスにより、電子会員証化を含めて、会員・加盟団体へのサービスの質的向上

（５）セーリングスポーツを支える委員会活動の活発化

・ジェンダー・イコールに向け、女性セーラーや指導者、運営に携わる女性を増やしていくために、女性代表者との情報交換会や各水域とのネットワーク作り

・LGBT を配慮したセーリング環境確保への取組

・乳幼児を持つセーラーや大会運営者へのサポートの実施

（６）セーリングスポーツを支えるサポート企業・団体・会員の開拓

・東京 2020 オリンピック、Top アスリート、次世代選手、障がい者セーリング、セーリング普及、環境保全など、様々な事業に向けたサポート企業・団体の開拓、獲得

（７）セーリングスポーツに関わる国際人の養成

・スポーツ庁や JOC、JSC などの助成事業を最大限活用し、国際的に活躍できる人材の養成

・World Sailing、ASAF（アジア・セーリング連盟）役員ポストの有効な活用と次期改選期のポスト獲得推進

## 【総務・広報グループ】

### 総務委員会　（委員長：安藤　淳）

１．公益財団法人としての組織運営への対応（JSAF 実行計画 1.（5）3.（1）（2）（5））

（１）公益財団法人として相応しい主要会議体の運営と、それを実行する運営体制の整備・強化を、関係委員会と連携しながら推進する。

・理事会の開催（3 ヶ月毎）　・評議員会の開催（年 1 回）

・全国加盟団体代表者会議の開催（年 1 回）　・総務委員会（原則月 1 回開催）

（２）中央競技団体としての更なる自律・自立を目指し、将来方向（ガバナンス強化、組織・財務基盤の強化、運営の適正・合理性の確立、加盟・特別加盟団体との連携強化）を見据えた諸規程・基準の継続的見直しと、運用面での適正な実施を関係委員会と連携して行う。

（３）スポーツ・インテグリティ、ガバナンス向上、ジェンダー・イコール、LGBT 対応等の諸課題に対する研修事業の企画立案（研修内容、研修対象の選定）及び実施を関連委員会と連携して行う。

２．会員管理新システムの加盟・特別加盟団体・会員向けサービスの継続的向上（実行計画 3.（3）（4））

（１）年会費決裁代行への原則移行、カード会員証の原則廃止について、加盟・特別加盟団体の要望を踏まえて適切に進める。

（２）会員管理新システム稼働後の運用状況をモニタリングし、会員、加盟（特別加盟）団体に対する更なるサービスの質的量的向上を実現する。

（３）JSAF が管理する情報システム（ホームページ、会員管理システム）のサイバーセキュリティ上の脆弱性を検証し、必要な対策を講ずる。（広報委員会連携）

３．JSAF 公認・後援（加盟・特別加盟団体主催）行事における適正運営の継続的実施（前年度から継続）（実行計画 1.（1）（6））

（１）JSAF が公認・後援し加盟（特別加盟）団体が主催するレース等の行事（日本開催の世界選手権を含む）の実施に対して、安全管理対策の徹底（事故報告体制構築）を関連委員会とともに進める。

（２）同上行事における、主催者保険の付与の徹底を継続して推進する。

４．JSAF 事務局業務の効率化の推進（前年度から継続実施）（実行計画 3.（1）（3）（4））

（１）事務局業務の質的向上と効率向上を進める。

（２）新会館移転に伴い、IT 機器を含めた事務機器の効率的活用を検討し、業務の効率化と組織内コミュニケーション能力の向上を図る。

（３）JSAF 運営資料のデーターベース化を促進し、業務内容の質的向上を実現する。

５．JSAF 組織活性化へ向けた取り組みの推進（表彰関係活動の充実等）（実行計画 3.（2）（5）（6））

（１）JSAF の組織活性化に向けて、加盟（特別加盟）団体や各委員会との連携を強化しながら、定期表彰における規程や基準の見直しを進めるとともに、計画的な実施に努める。

（２）JSAF 組織活性化の観点から、加盟団体/特別加盟団体と一体になったビジョン/中長期計画の策定へ参画する。

６．2020 東京オリンピック・パラリンピック対応（前年度から継続実施）（実行計画 2.（1）（2））

（１）オリンピック・パラリンピック準備委員会との連携を図り、2020 年実現へ向けた総務委員会としての所要の業務を遂行する。

（２）2020 東京オリンピック・パラリンピック開催準備へ向けて、財政委員会他関係委員会との更なる連携により、ＪＳＡＦ運営体制の強化を図る。

## 財政委員会　（委員長：地川　浩二）

１．経理基盤の強化を図る。特に、支払や発注に関する決められた手続きの浸透および徹底を図る。

２．各事業の適正な予算執行と速やかな会計報告の推進、管理を行う。

３．健全な財政基盤の確立を図るため、セーリングスポーツを支えるサポート企業や団体・会員の開拓に積極的に関与するとともに、各委員会とも連携を図りながら、活動継続のために必要となる財源の確立に貢献する。

＜セーリングスポーツを支えるサポート企業・団体・会員の開拓＞

＜セーリングスポーツを支える委員会活動の活発化＞

４．東京五輪準備ならびに中長期ビジョン達成のため、事業収支管理の強化ならびに適切な会計処理を行う。

＜公益財団法人としてのガバナンスの強化、社会規範やコンプライアンスの遵守＞

## 事業開発委員会　（委員長：安藤　正雄）

一昨年より、ボートショー会場及び国体会場での JSAF 出店に関して、セーリング業界と共にセーリング普及に重点をおく方針へと転換する運びなりました。　これを受け、当委員会としての商品制作も JSAF 会員用のエンブレム、ネクタイ、ピンバッチ等を主とし、オリンピックに向けた商品は、JSAF よりの贈答用の商品企画制作を進めたく願っています。但し、海外アスリート達は、組織委員会製作の五輪ロゴ商品を主な土産品としていることを調査の上、知りましたので皆様にも予めお含み置き頂ければ、幸甚に存じます。

また、JSAF 事務所移転に伴い現在、商品在庫を保管しています地下倉庫も移転先には無い為、保管・受注発送を業者に委託する方向で検討しています。然しながら、経費が嵩む為、これまでの商品制作販売では損失が発生してしまうことが懸念されますので、慎重に検討して参ります。

今後の商品制作については、JSAF カレンダーのように加盟団体等からの一括受注での制作できる商品開発、昨年は JSAF 商品を記念イベントの引出物品として大量にご購入頂きました。こうした受注制作できます商品開発も進めたく存じます。

１．業界・サポーターとの絆

昨年同様に、セーリング普及の為には、携わる業界の発展が不可欠と考えておりますので、業界との絆、サポーターとの交流を築くことを身近な方々と、まずは進めるようにしたく存じます。さらにヨットハーバー、マリーナ及び海の駅等に JSAF 会員募集の広報と併せて会員特典について研究して参ります。

２．セーリング普及事業の一助に

２０２０年に向けパラ・ワールドカップを若洲にて開催予定となりました。障がいのある人、ない人も共生してセーリング競技をスポーツとして、また、レクレーションとして、子供達に参加してもらい、その活動記念となります商品制作を「海と日本プロジェクト」、「オリンピック準備委員会」、「パラ・ワールドカップ」記念品等と併せて制作に取り組んで参ります。

３．JSAF 商品の販売と流通

本年２０１９年版 JSAF カレンダー、JSAF 事務局の協力と会員皆様の購買にて円滑に完売できました。深く感謝申し上げます。前項を鑑み、過剰在庫を避ける為、特別企画商品を除き追加製作は控え、現在の不動在庫販売には、皆様のイベントにご活用頂けます様、ご協力、ご支援をお願いして参ります。当委員会のメンバーも高齢化が進み、ご本人自身も通院頻度が増え、家族の介護にあたる等ございますので、本年も JSAF 事務局皆様のご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 広報委員会　（委員長：柳澤　康信）

１．セーリングスポーツの普及、発展と安全確保

【(1)～(8)】

当該の各委員会活動を主にホームページを通じて支援する。

【(9) セーリングファンの開拓】

セーリングへの理解を促進するツールを制作。競技会・ボートショー等の機会での啓蒙を通じ実現する。
≪新規≫
・「セーリング観戦ガイド」　冊子の制作/重版
・「はじめよう　セーリング」　冊子の制作/重版
≪継続・更新≫
・ホームページの「FUN　SAILING」のコンテンツ拡充
２．2020 に向けた選手の更なる国際競争力の強化
【(1)～（3)】
当該の各委員会活動を主にホームページを通じて支援する。
≪継続・更新≫
特に(3)　　オリンピックテストイベント、ワールドカップシリーズ、各種国際大会の成功について、大会実行委員会の広報サポート強化を図る
・メディア対応担当者を設置し、取材対応やリリース発信を強化。
・SNS 活用による啓蒙の拡大
スタート前・フィニッシュ・選手の表情等を facebook、twitter など SNSーを利用して会場ライブ感を伝える。セーリング愛好家にはレガッタを身近に感じてもらい、セーリング愛好家以外の新しい層の獲得も図る。
３．メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成
（１）公益財団法人としてのガバナンスの強化、社会規範やコンプライアンスの遵守
事務局・総務広報グループの連携を一層強化しつつ、各専門委員会への支援を行う。また、広報委員会として、主にホームページを活用して情報のアウトプットに務める。
（２）加盟団体/特別加盟団体と一体になったビジョン/中長期計画の策定
プロジェクトグループとの連携を一層強化しつつ、策定支援を行う。また、広報委員会として、特にビジョンの共有・施策情報のアウトプットに務める。
（３）情報システムのセキュリティ対策
事務局・総務広報グループの連携を一層強化しつつ、対策支援を行う。
≪新規≫
・内閣府サイバーセキュリティ対策室と関係をより強固にし、恒常的にアドバイスをもらえる体制を築く。
・分散されている JSAF 委員会のサーバーを統合し、集中管理することでリスクの軽減を図る。
・理事会・ホームページを通じ、JSAF 全体のリスクに対するリテラシーの向上を図る。
≪継続・更新≫
・定期的にパスワードの設定を実施することで、リスクの軽減を図る。
（４）会員管理システムのサービス向上
事務局・総務広報グループの連携を一層強化しつつ、対策支援を行う。また、広報委員会として、特に情報のアウトプットでの支援に務める。
（５）セーリングスポーツを支える委員会活動の活発化
当該委員会グループの連携を一層強化しつつ、対策支援を行う。また、広報委員会として、特に情報

のアウトプットでの支援に務める。

（６）セーリングスポーツを支えるサポート企業・団体・会員の開拓

≪継続・更新≫

・連盟・オリンピック強化委員会への協賛スポンサーへの付加サービスの提供を行う

・スポンサーにも商品紹介やタイムリーな情報をメール活用して行う、など新たなサービスの提供を図る

・ホームページ『PRESS ROOM』の充実化を図る。

・報道機関の「セーリング担当者リスト」の一層の充実を図る。

・報道機関とのコミュニケーションを深め関係許可を図る。

（７）セーリングスポーツに関わる国際人の養成

当該委員会グループの連携を一層強化しつつ、対策支援を行う。また、広報委員会として、特に情報のアウトプットでの支援に務める。

**その他事業計画**

≪新規≫

・J-Sailing 過去刊行誌のデータアーカイブ作業を実施。新事務局での記録文書軽減を図る。

≪継続・更新≫

・J-Sailing（イヤーブック）の編集・刊行・発送を例年通り行うことで会員へのサービス強化を図る。

## 環境委員会　（委員長：芝田　崇行）

１．World Sailing の『Sustainability Agenda 2030』にタイアップした日本のセーリングにおける持続可能性活動を検討し、他委員会との連携を高め、東京オリンピック 2020 の際の課題を早急に見極め、対策を講じる。

２．環境キャンペーン：全日本クラスの大会への補助金支給。キャンペーンの申請方法、支給額の通達方法等を見直し、より環境啓蒙に特化した補助金としていきたい。

３．環境啓蒙ブックレット：引き続き環境を守るために何ができるか、子供でも分かりやすいようにテーマを絞り展開させていく。

４．環境啓蒙保全活動：

①国体でのトリプルエコバッグのワークショップを継続的に行う。

②ペットボトルホールダーの有効利用

③その他　子供、若年層をターゲットにしたスポンサーへもアピールできる環境啓蒙活動の拡充

５．スポンサー対応策：スポンサーとの良好な関係の構築、継続、新たスポンサーの確保。

６．Web site を有効活用し、外への情報発信の拡充。

## レディース委員会　（委員長：富田　三和子）

**実行計画１．セーリングスポーツの普及、発展と安全確保**

＜（１）JSAF 主催大会の確実なる成功＞

・女性の視点からの大会全体計画の考察をし、女性セーラーが満足する大会を実現する
（１）国体研修会や国体委員会において、女性の視点から大会全体計画を検討
①更衣室・トイレ等の点検
②医務室や緊急対応病院の確認
③チャイルドルームの設置
（２）国体、国体リハーサル大会での女性選手・役員・指導者の実態把握
①各県連や加盟団体に、女性の実情に関してのアンケートを実施
＜(9)セーリングファンの開拓＞
・ジャパンインターナショナルボートショーの準備・運営を行い、より充実したボートショーを実現する
（１）女性やファミリー向けのイベント内容を検討
（２）子どもの勧誘計画の立案と実施
①千葉県・東京都・神奈川県の３県で連携した広報活動
②学校以外での広報活動計画を検討
**実行計画２．２０２０に向けた選手の更なる国際競争力の強化**
＜(3)オリンピックテストイベント・ワールドカップシリーズ、各種国際大会の成功＞
（１）プレオリンピック・ワールドカップ、江の島オリンピックウィークの大会で、女性選手・役員・指導者をサポートするためにチャイルドルームを設置
①設置場所の確保
②保育士の確保（藤沢市保育団体に依頼）
**実行計画３．メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成**
＜(2)加盟団体/特別加盟団体と一体になったビジョン/中長期計画の策定＞
（１）第 2 回レディース委員会主催情報交換会の実施
①加盟団体・特別加盟団体の女性代表者との情報交換会を 11 月に実施
②第 1 回情報交換会での課題に向けて、具体的対策を検討
（２）他の委員会と連携した人材育成
①国際的に通用する女性役員の育成
②女性理事との連携
＜(5)セーリングスポーツを支える委員会活動の活性化＞
（１）各水域とのネットワーク作り
①国体やプレオリンピック、ワールド大会等の機会を利用し、各水域のセーラーや指導者・運営にたずさわる女性とのネットワーク作り
（２）全日本選手権等における大会主催のチャイルドルームの設置
①レディース委員会が備品や設置に協力
②JOC 並びに各競技団体に積極的に働きかけて広報
**その他事業計画**
（１）新年会実行委員会
・JSAF 新年会の開催に向けて、総務・広報委員会・事務局と連携し準備と運営を行う

（２）対外活動

・JOC 主催の女性スポーツ会議、フォーラム等に積極的に出席し、他のスポーツ競技団体との情報交換を行う

## アスリート委員会　（委員長：関　一人）

１．選手（プレーヤー）サイドの意見が反映できるような環境作り

（１）ナショナルチーム選手代表者の当委員会への登用

（２）国民体育大会、高校総体にて現場の意見を調査、分析し、各委員会へ発信

２．IOC へのセーリング競技存続に向けた取り組み

他委員会と連携し、日本としてアジア諸国、WS と連携した地位向上活動

（多国、地域に根差したセーリング普及）

３．JOC へのセーリング競技の知名度、競技同士の連携強化

（１）JOC アスリート委員会への参画

（２）オリンピズムの浸透を目指した啓蒙活動

４．2020 年東京オリンピック開催に向けた選手の地位向上およびセーリング競技の啓蒙

（１）江ノ島開催に向け、選手サイドの考え、使いやすさ、海外選手の要望などのフィードバックを行う。

（２）セーリング競技の知名度の低さからくる選手への影響を最小限にするべく、啓蒙活動への積極的な参画、他委員会との連携を図り、具体的活動の推進

# 【競技推進グループ】

## ルール委員会　（委員長：増田開）

**実行計画１．セーリング・スポーツの普及、発展と安全確保**

＜（１）JSAF 主催大会の確実なる成功＞

・国体、国体リハーサル大会、ジャパンカップにおいて、安全で、かつセーラーが満足する大会の実施

（１）JSAF 主催大会等へのジャッジ・アンパイア派遣

① 目　的：国内レースの質の向上とナショナルジャッジ/アンパイアの養成。

② 現　状：大会の成功に加えて、開催地等のジャッジ/アンパイアとの交流により、国内ジャッジ/アンパイアの養成と能力向上にも寄与している。

③ 実施内容：国体、国体リハーサル大会、ナショナルチーム選考レースを始めとする JSAF 主催大会等へジャッジ/アンパイアを選考・派遣。

④ 実施時期：都度

**実行計画１．セーリング・スポーツの普及、発展と安全確保**

＜（２）スポーツマンシップ・シーマンシップの更なる定着＞

（１）レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開

（２）ジャッジ・アンパイア関連書の翻訳・発行

① 目　的：World Sailing 発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアルの日本語訳・展開により、国内ジャッジ/アンパイアのレベル維持・向上を図る。

② 現　状： 2017-2020 最新版のアンパイア・マニュアル（マッチレース、チームレース）の日本語訳は発行済み。ジャッジ・マニュアル日本語訳も 2018 年度中に発行の予定。
③ 実施内容：ジャッジ・マニュアル、アンパイア・マニュアル（マッチレース、チームレース）日本語訳の販売。これらの補遺、および、新たに World Sialing から発行が予想されるアンパイア・マニュアル（フリートレース）を日本語訳して展開する。
④ 実施時期：World Sailing から発行の都度.

（3）ナショナルジャッジ・アンパイア講習会の開催
① 目　的：ナショナル A 級ジャッジ（NJ-A）、アンパイア（NU）を養成することで、国内レースの質の維持・向上を図る。
② 現　状：NJ-A/NU 新規認定講習会のほか、ジャッジクリニックを毎年全国各地で開催し NJ のスキルアップに効果を挙げている。更新認定講習会は RRS 改定に合わせて 4 年毎に実施（次回は 2020 年度）。
③ 実施内容：新規 NJ-A/NU 認定講習会をそれぞれ 3 回開催。ジャッジクリニックを全国 8 カ所程度で開催する。加えて、新たにアンパイア制フリートレースを対象としたアンパイアクリニックを開催する。
④ 実施時期：NU 新規認定講習会：6～12 月、NJ-A 更新認定講習会：12～3 月、アンパイアクリニック：12 月、ジャッジクリニック：1～3 月。

（4）B 級ナショナルジャッジ認定のための付帯業務
① 目　的：国内の初級ジャッジの養成・
② 現　状：講習会開催と試験実施は加盟団体・特別加盟団体に委託している。
③ 実施内容：試験問題・講習用補助資料の作成と、認定業務、認定証発行。
④ 実施時期：都度

**実行計画１．セーリング・スポーツの普及、発展と安全確保**
＜（2）スポーツマンシップ・シーマンシップの更なる定着＞
・レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開

**実行計画 3. メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成**
＜（7）セーリング・スポーツに関わる国際人の養成＞
・スポーツ庁や JOC、その他の助成事業を最大限活用し、国際的に活躍できる人材の養成。また、World Sailing、ASAF（アジア・セーリング連盟）役員ポストの有効な活用と次期改選期のポスト獲得推進

（5）国際ジャッジ・アンパイア（IJ/IU）の育成
①目　的：世界に通用するジャッジ/アンパイアを発掘養成して国内レースの質の向上を図ると共に、特にアジア諸国など海外のジャッジ/アンパイアの育成にも貢献することで、ナショナルオーソリティとしての世界での地位向上を図る。
② 現　状：複数の IJ/IU 資格者が World Sailing 及び ASAF 役員/委員としても貢献している。現在国内 IJ は 7 名（H30 年度末時点：70 代 3 名、60 代 2 名、50 台 1 名、40 台 1 名）、IU は 2 名（60 代）。
③ 実施内容：若手 IJ/IU を継続的に輩出するため、国内 IJ/IU 候補者に海外レース等を経験させるための渡航費補助、アジア諸国の IJ/IU 候補者の JSAF 主催国際大会への来日支援、国内 IJ/IU による機会獲得支援を行う。また、JSAF から World Sailing に推薦する IJIU 候補推薦者選定のための IJIU 候補推薦委員会を開催する。
④ 実施時期：IJIU 候補推薦委員会は 7 月、渡航費補助・機会獲得支援は都度。

**実行計画１．セーリング・スポーツの普及、発展と安全確保**
＜（3）選手と共に成長し続ける指導者の育成＞
・JSAF 指導者育成体系に則った指導者の育成による選手の成長と安全担保
＜（5）スポーツ・インテグリティの向上＞

・ジュニア・ユース選手/指導者を対象としたスポーツマンシップ、シーマンシップ教育の強化と環境保全への取組による社会貢献

（６）指導者・選手向けルール講習会の開催

① 目　的：特に初級選手やその指導者へのスポーツマンシップの普及、スポーツマンシップの根幹であるルール理解を促進するとともに、ルールに関連したゲーム性の観点からセーリング競技の魅力を伝えることで競技人口拡大にも貢献する。

② 現　状： 本事業は H21 年度に開始し 10 年間に渡って実施してきた。受講者は毎年 800 名を超える。

③ 実施内容：全国 20 カ所程度で講習会を開催する。

④ 実施時期：1～3 月

（７）ルールブックの普及

① 目　的：セーリング競技の根幹であるルールブックの JSAF 会員への普及率を向上させる.

② 現　状：JSAF 会員約 1 万名に対し、2016 年改定前の旧ルールブック販売数は 4 年間で 4 千冊強であった。普及促進と JSAF 会員の利便性向上を目的として、2018 年 2 月より初めて電子書籍としても販売を開始した。

③ 実施内容：事業 6)の講習会も利用して指導者・選手へのルールブック普及促進を図る。

④ 実施時期：都度

**実行計画 3. メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成**

＜（２）加盟団体/特別加盟団体と一体になったビジョン/中長期計画の策定＞

・将来にわたってセーリングスポーツを振興するため、加盟団体/特別加盟団体と JSAF が一体になって推進できる普及、競技力向上、組織強化を柱にしたビジョンや中長期計画の策定

（８）アンパイア制レースの普及

① 目　的：世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え、将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、国内でのアンパイア制レースの普及、競技力向上と、アンパイア養成を中心とする組織強化を図る。これらは、大会主催団体となりうる加盟団体/特別加盟団体と一体となって中長期的に推進する必要があり、先ずそのためのビジョン共有と連携体制構築を目指す。

② 現　状：国内ではアンパイア制の大会（マッチレース／チームレース）が長年に亘り減少傾向にあり，これに伴ってナショナル・アンパイアも減少してきており現在 28 名、ナショナル・アンパイアが所属する加盟団体・特別団体は極めて限られている。

　一方で，国内と同様の傾向にあった世界では一転して、アンパイア制レースが拡大する傾向にある。具体的には、オリンピック種目を中心とするメダルレースの定着に加え、比較的艇数の少ないキールボートの大会を中心に、全レースをアンパイア制とする大会が増加傾向にある。これに応じて World Sailing においては、アンパイア制フリートレースのための新たなマニュアルとコールブックを策定する体制が構築された。また、2018 年の World Sailing 総会では、2024 五輪へのチームレース導入の提案もあった。

③ 実施内容：国内大会の主催団体である加盟団体・特別加盟団体への働きかけにより、メダルレースを含むアンパイア制フリートレースやチームレースの普及を支援すると共に、アンパイアの発掘・養成、加盟団体・特別加盟団体との連携体制強化を図る。具体的には、新たにアンパイア制レース実施大会の継続的開催を計画する加盟団体・特別加盟団体を対象に、チーフアンパイアを派遣する。

④ 実施時期：都度。

**その他事業計画：**

委員会基本活動：ルール関連資料の翻訳・発行

① 目　　的：セーリング競技の根幹であるセーリング競技規則（RRS）及び World Sailing 規定、規則解釈等を、日本語訳して国内セーラーへタイムリーに提供する。

② 現　　状：RRS とケースブック，コールブックを 4 年毎の改定の都度、日本語訳して発行している。加えて、World Sailing 規定（毎年改定）、規則 42 の World Sailing 公式解釈、Q&A、ラピッドレスポンスコール等の World Sailing 発行ルール関連資料も都度日本語訳して展開している。
③ 実施内容：World Sailing から新たに発行が予想されるコールブック（フリートレース）を翻訳・発行する。また、発行済みのケースブック，コールブック（マッチレース、チームレース）の補遺、World Sailing 規定の改定や、Q&A、ラピッドレスポンスコールの追加などの World Sailing から発行されるルール関連資料を日本語訳して展開する。
④ 実施時期：World Sailing からの発行の都度。

委員会基本活動：ルール委員会の開催
① 目　的：ルール委員会活動の実施
② 現　状：多くの事業を遂行するために年 2 回の通常委員会（各 1 日）開催だけでは不十分なため、例年 1 回の臨時委員会（2 日間）を追加で開催している。
③ 実施内容：小委員長会議を 1 回（1 日），委員会を 3 回（計 4 日間）実施。
④ 実施時期：小委員長会議：6 月、通常委員会：6 月、12 月、臨時委員会：3 月（2 日間）

委員会基本活動：ルール・ジャッジ・アンパイア情報の展開
① 目　的：ルール・ジャッジ・アンパイアに関する JSAF としての会員サービスの実施。
② 現　状：ルール委員会 WEB、加盟団体/特別加盟団体の代表者のメーリングリスト、及び、A 級ジャッジのメーリングリストで情報展開している。
③ 実施内容：メーリングリストの更新管理。WEB、メーリングリストでの情報展開。
④ 実施時期：都度

委員会基本活動：指導者資格更新のための義務研修の登録業務
① 目　的：日本スポーツ協会の認定する指導者資格を有する JSAF 会員の、同資格の更新条件である JSAF 主催講習会等の受講状況を適切に日本スポーツ協会データベース（DB）に登録する。
② 現　状：ルール委員会の実施している講習会では、NJ-A/NJ-B/NU の認定講習会、ジャッジクリニック、および、指導者・選手向けルール講習が義務研修対象となっている。
③ 実施内容：各講習会の公示時点での DB 登録、講習会実施後の受講者情報の DB 入力
④ 実施時期：都度

## レース委員会　（委員長：大庭秀夫）

**実行計画１．セーリング・スポーツの普及、発展と安全確保**

（１）JSAF 主催大会の確実なる成功

【国体小委員会】

① 国体委員会及びルール委員会等と連携し、茨城国体、鹿児島プレ国体を安全・公正・公平に実施する
② 開催地に応じたレース公示及び帆走指示書を作成する
③ 国体委員会会議等へ参加し課題等を洗い出し大会開催に備える
④ 国体実行委員会からの要請に基づきレース委員を先行し派遣する
⑤ レースオフィサー小委員会と連携し地元スタッフのスキルアップを図る

【公認審査管理部】

① 公認・後援等を適切に管理するため、レース運営規則の見直しを検討する。
② 公認・後援等を適切に管理するため、公認申請書の書式および申請手続きの流れの見直しを検討する。
③ 大会後の報告書の整理

（２）レースオフィシャルズの養成による国内大会の質の維持・向上

【レースオフィサー管理部】

① レースオフィサー規程の見直しと管理運用

② レースオフィサー制度事務処理要領の見直しと管理運用

【レースオフィサー小委員会】

① レースオフィサーセミナの実施とテキスト改訂・管理

② レースマネジメントクリニックの実施とテキスト改訂・管理

（６）セーフティーセーリングの推進

【安全危機管理小委員会】

① OSR、危機管理マニュアル等の整備

② JSAF 事故報告体制の構築と事業スタート

③ 国体及びリハーサル大会における安全基準の検討

④ 悪天候や大地震など非常災害時における自然災害外の対応について

（７）外洋レース、大型艇レースの活性化

【外洋小委員会】

① 公認審査管理部と連携し、外洋系レースの公認・後援等の審査で生じる問題に対処する。

② 外洋系レース運営における特異事項の全国加盟団体への周知する

③ 外洋系レースにおける安全・危機管理の運用を外洋安全委員会と協力し会員へ周知する。

④ 外洋系レーティングルールの運用を外洋計測委員会と協力し整備し会員へ周知する。

⑤ 情報共有のために外洋合同委員会を各外洋系専門委員会と協力し開催する。

⑥ 公認・後援等を適切に管理・運用するため、外洋レースについてレース運営規則の見直しを検討する

⑦ レースオフィサーの技能について外洋関連の情報を提供し、検討する。

**実行計画２．2020 に向けた選手の更なる国際競争力強化**

（３）オリンピックテストイベント、ワールドカップシリーズ、各種大会の成功

【IRO 小委員会】

① International Race Officer 育成に向けた World Sailing IRO セミナ･クリニックを計画実施する。

② 2020 東京オリンピックに向けたレースオフィシャルズの更なるレベルアップ促進

【オリンピック/SWC 小委員会】

① 2020 東京オリンピックに向けて海上運営メンバー育成計画に沿ったチーム編成

② 2020 東京オリンピックが行われる相模湾にて運営メンバーのスキルアップ。

実行計画３．メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成

（４）会員管理システムのサービス向上

【レース委員会事務局】

JSAF ホームページ及び会員管理システムを利用した、迅速な情報提供と充実したサービス向上

## ワンデザインクラス計測委員会　（委員長：中村和哉）

JSAF　2019 度基本方針、および実行計画に基づき、以下の事業を行う。

１．セーリング装備規則（ERS）及び関連規則・文書等の管理（※1（2）（5）（6）関連）

２．各クラス協会と連携した公式計測員の養成（ERS 講習を含む)、および各クラス公式計測員名簿の管理（※1（2）関連）

３．インターナショナル・メジャラー（IM）養成の支援（※2（3)、3（7）関連）

４．外洋艇、キールボート計測員名簿の管理（※1（7）関連）

５．World Sailing（WS）のインハウス証明（IHC）プログラムに伴う検査機関としての業務と IHC ステッカーの管理業務（※1（2）関連）

６．国民体育大会および国体リハーサル大会を含む大会計測員の養成、当該種目のクラス・チーフメジャラーおよび開催県計測部長と連携した計測運営関連文書の作成支援（※1（1）（2）（5）（6）関連）

７．2020 東京五輪及び SWC に向けた計測スタッフの資質向上に係る活動（計測セミナーなど）（※2（3）関連）

８．定例委員会の開催、および関係会議への出席、ホームページ掲載内容の管理（※3（5）関連）

## 国際委員会　（委員長：戸張房子）

１．国際会議への代表者、委員の派遣

（１）WS ミッドイヤーミーティング 2018 年 5 月 12～15 日　ロンドン

出席予定者　大谷たかを

（２）WS 年次総会　　2018 年 10 月 27 日 ～11 月 3 日　サラソタ（アメリカ・フロリダ州）

出席予定者　大谷たかを、柴沼克己、小林昇、増田開、入部透、須藤正和、斉藤愛子

（３）ORC 年次総会　2018 年 10 月末～11 月初旬 サラソタ（アメリカ・フロリダ州）

出席予定者　植松眞、小林昇

（４）IRC 年次総会 2018 年　出席予定者　角晴彦他（派遣費用は国際委員会予算外）

（５）ASAF 年次総会　場所未定　　出席予定者　荒川博人

２．Sport For Tomorrow Project（外務省・スポーツ庁）の実施

詳細未定（2018 年度 4 月に決定）

普及指導委員会と協力し、セーリング途上国の選手・コーチの招聘または海外派遣による研修を計画中。JOC オリンピックソリダリティ事業も申請予定。

３．外洋艇　普及促進のためレーティングの導入および管理（外洋計測委員会と連携）

（１）IRC レーティングの普及および運営。

（２）ORC レーティングの JSAF 計測委員会が証書発行開始　（ORCAN から移管)。

上記両レーティングの計測共通化の情報収集。

４．２０２０年東京オリンピック・パラリンピック準備委員会と協力し、WS との協議等に関し協力。

セーリング競技をパラリンピックに復帰させる活動への協力。

５．ワールドカップ江の島大会他、ディンギー・外洋艇の国際レース開催、参加への協力。

６．国際的な情報収集およびその情報の迅速な提供。
７．日本から海外への情報発信。
８．オリンピック強化委員会と協力し、オリンピックセーラー育成、ゴールドプラン実現のための国際情報収集・提供。海外 MNA との友好関係の構築・強化、交流の促進。
９．ルール委員会、レース委員会、ワンデザイン計測委員会と協力してルールおよびレース・マネジメントに関する情報収集、並びに IJ, IU, IRO, IM の育成サポート。
１０．普及指導委員会と協力し、JOC 国際人養成プログラムに参加するなど、次世代を担う人材の育成と確保に努める。
１１．WS の Sustainability Agenda 2030 の JSAF での担当委員会決定までのフォロー。

## 医事･科学委員会　（委員長：山川雅之）

**実行計画１．セーリング・スポーツの普及、発展と安全確保**

＜（３）アンチ・ドーピング（AD）活動の推進＞

アンチ・ドーピング小委員会が主体

（１）ドーピング検査に対する NA として参加
（２）選手、コーチ、監督、指導者へのアンチ・ドーピングの指導・啓蒙
（３）スポーツファーマシストの育成
（４）アウトリーチ活動の推進

＜（４）セーフティーセーリングの推進＞＜（5）JSAF 主催大会の確実なる成功＞

（１）競技会における競技胎勢の指導、助言
（２）安全講習及び公認コーチ講習に講師の派遣
（３）選手の健康管理、外傷予防に関する相談への対応
（医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養師、トレーナーによる）

**実行計画 2.　2020 に向けた選手の更なる国際競争力の強化**

（１）海外派遣選手に対する医学的指導、医師、トレーナー等帯同および選手、コーチからの相談・要望に対する対応
（２）ＬＩＮＥ、メールによる連絡体制構築

**実行計画 3.　メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成**

＜（５）セーリングスポーツを支える委員会活動の活発化＞

（１）普及指導委員会、国体委員会、オリンピック強化委員会との連携
（２）委員の増員、委員会組織の見直し

＜（７）オリンピックテストイベント、ワールドカップシリーズ、各種国際大会の成功＞

（１）東京オリンピック組織委員会への医療協力
（２）ワールドセーリング医事委員会との連携

**その他の事業計画**

公認スポーツドクター、公認スポーツデンティスト、公認スポーツファーマシスト
公認スポーツ栄養師、公認トレーナー養成講習会受講のＪ－ＳＰＯへの推薦および

更新の手続き

## ドーピング裁定委員会　（委員長：棚橋善克）

１．ドーピング違反事案発生時、JADA と連携を取り合い、裁定を行う。

２．医事委員会と連携し、アンチ・ドーピング思想の普及に努める。

# 【普及強化推進グループ】

## 普及指導委員会　(委員長：川北達也)

**実行計画１．セーリングスポーツの普及、発展と安全確保**

**（４）選手と共に成長し続ける指導者の育成**

１．JSAF 新指導者育成体系構築<継続>

（１）JSAF 指導者指針および指導者規程の策定<新規>

平成 30 年度に策定し、承認された「JSAF 指導者育成体系」に基づき、指導者が活用推進するために、指導者の行動指針や資格規定を策定する。

（２）専門科目講習会の改定<新規>

2019 年度より改定される JSPO スポーツ指導者養成制度に合わせて、「JSAF 指導者育成体系」に基づく新カリキュラムに準拠した、コーチⅠ、コーチⅡの実施プログラムを策定する。(実施は 2020 年度より)

２．次世代公認指導者の養成＜継続＞

指導者育成を通じて加盟団体の組織活性化に貢献。

（１）公認指導者養成講習会の開催　(JSPO 委託事業)

ジュニア・ユースの指導者を中心にコーチⅢ養成専門科目講習会の開催。

2019 年度は、国体監督の資格向上に向け、2 回の実施。

（２）公認指導者養成講習会(コーチⅢ共通科目)への講師派遣　(JSPO 主催事業)。

３．公認指導者の継続的レベルアップ

（１）指導者講師研修会の開催(JSPO 助成事業)＜新規＞

都道府県連の公認指導者に対して、改定したコーチⅠおよびコーチⅡの実施プログラムおよび教材の展開。

（２）更新研修の受講促進＜継続＞

指導者資格更新に必要な更新研修実施と加盟団体主催講習会の更新研修認定。

研修情報の周知受講者情報の確実な登録を実現する関連委員会との仕組運用。

（３）指導者リストの整備＜継続＞

更新まで 1.5 年以内の指導者資格保有者に対して、更新研修受講情報の提供

（４）セーラー育成システムの標準化＜継続＞

H30 に策定したセーリングガイドへの写真や映像の追加

（6）セーフティーセーリングの推進

1．JSAF 安全基準の策定、展開＜新規＞

（1）セーリングセンター/セーリングクラブの施設/設備に関する安全基準の策定

ライフジャケット着用、指導者の海上での救急救命など、危機管理 WG 提言を含めた JSAF 安全基準を関係委員会と協業して策定

（2）セーリングスクール/ヨット部の指導者の資格保有基準の策定

全国のセーリングスクール/ヨット部の指導者の資格保有の調査と安全対策などを調査し、JSAF としての指導者の資格保有基準を策定

（3）バッジテスト検定員の資格基準の策定

安全をテーマにしたバッジテストの内容見直しに合わせて、検定員資格を規定化

（4）事故報告書の収集管理と情報展開

事故内容を蓄積して課題と対応を標準化した内容を各団体にフィードバックする仕組みを関係委員会と調整して策定。

2．安全確保のキャンペーンおよび情報展開＜新規＞

（1）ライフジャケット/キルコードの使用徹底

指導者等が乗るラバーボートのキルコードの正しい使用方法載せたガイドブックと映像を公式サイトで展開

（2）練習環境の安全徹底

各地の練習海面の安全基準チェックリスト策定に向けたガイダンスを作成展開

3．バッジテストシステムの再構築＜新規＞

（1）バッジテスト検定制度改定案の策定

ジュニア・ユース世代が楽しんでチャレンジできる初級取得の検討

（2）バッジテスト上級の改定による強風域に対する大会参加資格基準の検討

（9）セーリングファンの開拓

1．ボートショウをキッカケにしたセーリング未体験者の誘導＜継続＞

関係委員会と協業にてセーリングブースの展示企画

2．加盟団体、特別加盟団体の普及活動支援＜継続＞

（1）「海と日本プロジェクト」企画申請と参加団体実施支援(日本財団委託事業)

（2）ボートショウで確立した小中学校へのアプローチを標準化し、全国に展開する。

これにより、各地で子供たちにセーリング体験をする場の提供を行う。

（3）関係委員会と協業で、子供達への陸上セーリングイベント企画の策定と、使用する材料の提供。

実行計画３．メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成

（5）セーリング・スポーツを支える委員会活動の活発化

1．加盟団体、特別加盟団体参加の指導者への情報展開強化＜継続＞

委員会ページの改定

2．JSAF 実施事業の質的向上と委員会ノウハウ交流

他委員会との協業事業の拡大

３．中長期計画策定支援
他委員会や団体と協業にて、JSAF の中長期計画の作成に向けた活動を行う

**（７）セーリング・スポーツに関わる国際人の養成**

１．JSAF 国際人材育成制度(仮称)の策定＜新規＞
JSAF として World Sailing や ASAF に派遣できる人材を養成する育成体系の策定

２．JSAF 国際人材育成制度に基づく、人材発掘と育成
国際連盟および他国からの指導者育成ノウハウの収集

（１）国際人材育成制度への企画申請と、人材派遣支援(スポーツ庁委託事業)＜継続＞

（２）JOC 国際人養成アカデミーへの人材派遣＜継続＞

（３）スポーツ指導者海外研修事業への推薦と派遣支援(JOC 事業)＜新規＞

（４）JOC コーチングアカデミーへの人材派遣＜新規＞

３．World Sailing/ASAF での JSAF 地位向上＜継続＞

（１）World Sailing デベロップメント会議参加
国際標準の指導育成情報、及びノウハウの収集と展開

（２）国際委員会が展開する SFT 事業への支援

## 国体委員会　（委員長：森　信和）

**実行計画１．セーリングスポーツの普及、発展と安全確保**

＜（５）JSAF 主催大会の確実なる成功＞
国体、国体リハーサルにおいて、安全で、かつセーラーが満足する大会の実施

１．第 74 回国民体育大会茨城国体セーリング競技会の準備を推進し、競技方法及び大会運営方法について検討を進め、同大会を開催する。

２．鹿児島国体リハーサル大会の準備を支援し、同大会を開催する。

３．第 75 回国民体育大会鹿児島国体セーリング競技会の大会開催の準備を推進する。

４．日本スポーツ協会の依頼に基づき、中央競技団体として国体開催予定地の正規視察及び国体開催について指導・助言を行う。

５．国体開催地正規視察を終えた三重県、栃木県、佐賀県等の国体開催予定地の準備を支援する。

６．少年種目の中学 3 年生の参加について推進する。

７．国体及びリハーサル大会のレース艇、運営艇等の安全対策を推進する。

８．国体イベント事業及び「見える国体」「見せる国体」について支援及び実施する。

９．国体及びリハーサル大会実施を機に開催地にセーリングスポーツの普及を推進する。

１０．国体及びリハーサル大会期間中、「海を汚さない」美化啓蒙活動並びに会場美化活動を推進する。

１１．2020 東京オリンピック、World Cup、艇種別世界選手権大会の国内開催に向け、レース運営のスキル、競技役員の資質向上を図るために国体のレース運営を活用した支援を行う。

１２．国民体育大会セーリング競技研修会の開催（行政関係者、セーリング関係者合同研修会）

**その他事業計画　（各委員会固有・定例の事業計画について）**

１．県名・県番号の販売斡旋を行う。
２．国体ウインドサーフィン級の年度登録及び管理を行う。

## オリンピック強化委員会　（委員長：斎藤　渉）

１．2020 東京オリンピックにおいてメダル獲得を含む十分な成果を実現させることを目指し、組織的な強化体制を構築し、効率的・集中的な強化活動を行う。
２．次世代アスリートの発掘・育成・強化について、各関係団体と連携し、中・長期的な観点から競技力向上を図る。
３．強化活動に関連する連盟内の委員会、クラス協会、企業、スポンサー、外部団体等と連携し協力関係を構築する。
４．フィジカル面の強化、メンタル、気象データ分析、パフォーマンス評価など、競技成績に関係する各分野に対して積極的な取り組みを行い、情報を選手・コーチと共有し成績向上に直結するようサポートする。
５．ルールに関する知識、審問対応力の向上について、専門スタッフの指導により重点的に取り組む。
６．コンプライアンス・危機管理などの情報を選手・コーチと共有し、社会的責任の啓蒙と安全な強化活動の実施に務める。
７．取材依頼、広報活動、スポンサーからの協力要請等に対して積極的に協力し、日本におけるセーリング競技の認知度を高める。

## ジュニアユースアカデミー委員会　（委員長：中村公俊）

**実行計画１．セーリングスポーツの普及、発展と安全確保**
**＜（３）選手と共に成長し続ける指導者の育成＞**
**＜（５）スポーツ・インテグリティの向上＞**
全国のジュニア・ユースの指導者を対象としたコーチングセミナーを行い、スポーツ・インテグリティとコーチング力の向上を実現する。
１．ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデミー兼コーチングセミナー＜新規＞
（１）適当な開催時期と開催場所を調整する。
（２）研修会講師をアカデミコーチの中から複数名選定し、情報共有を図る。
**実行計画２．2020 に向けた選手の更なる国際競争力の強化**
**＜（２）ジュニア・ユースセイラーへの幅広い、活動支援＞**
全国の水辺で活動するジュニア・ユースセイラーとその指導者を対象としたシーマンシップの啓発を目的とするコーチ派遣事業を行い、青少年の健全育成及び競技力の向上を図ると共に指導技術の向上を実現する。
１．コーチバンクの構築＜継続＞
（１）歴代のオリンピアン及びナショナルチーム経験者をアカデミーコーチとしてコーチバンクに登録する。

（２）アカデミーコーチ間で事業コンセプトについての情報共有を図る。

２．教本の整備＜継続＞

（１）シーマンシップに関する教本を整備する。

（２）全国の対象者に教本を配布する。

３．ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデミー事業の実施

（１）全国の水辺で活動するジュニア・ユースセイラーとその指導者を対象として、アカデミーコーチの派遣を行い、シーマンシップを啓発する。

（２）実施状況についてＷＥＢ等を通じてレポートし、広くシーマンシップを啓発する。

## キールボート強化委員会　（委員長：中澤信夫）

キールボートの普及・活性化・強化をテーマに次の事業への支援を行なう。

１．JSAF へ届くキールボート系海外招待レースへの出場チーム選考、キールボートナショナルチーム選考・支援及び代表チーム強化の環境構築

２．セーリングパーク構想に向けた環境の開拓、推進、提案活動の実践

３．キールボートワンデザインクラスの活性化に繋がる協力・支援活動

４．大学対抗＆U25 マッチレース選手権 2019 開催に向けての支援協力活動

５．ユニバーシアードセーリング選手権 2019 の日本代表チーム選考・派遣及び支援

６．2019 ネーションズカップへの日本代表チーム派遣及び支援

７．インビテーションカップへの日本代表チーム選考・派遣及び支援

８．Royal　Yacht Squadoron Global Team Regatta への日本代表チーム選考・派遣及び支援

## オリンピック･パラリンピック準備委員会　（委員長：河野博文）

■実行計画 1．セーリング・スポーツの普及、発展と安全確保

＜（１）セーリングファンの開拓＞

①セーリングサポーター層の構築

国内で開催されるワールドカップをはじめとした国際大会を通じ、レース解説や地域住民を巻き込んだセーリングイベントを通じて理解を深め、一人でも多くのセーリングサポーターと呼べる層を構築していく。

②メディア露出・SNS の活用

様々な機会を通じてメディア露出を訴求の他、SNS を活用した広報に努める。

■実行計画 2．2020 に向けた選手の強化と国際競争力の強化

＜（１）ナショナルチーム（選手・コーチ・スタッフ）の強化＞

①オリンピック強化委員会のバックアップ

日の丸セーラーズの協賛金を通じ強化委員会を資金的にバックアップする。

②トレーニング機器の購入

湘南港に新設されるセーリングセンター（仮称）の有効活用の為、必要なトレーニング機器の導入をバックアップする。

■実行計画 3. メンバーや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成

＜（６）セーリングスポーツを支えるサポート企業・団体・会員の開拓＞

①新たな支援企業の発掘

JSAF は他の競技団体に先駆けいち早く「日の丸セーラーズ」プロジェクトを立ち上げ支援企業を募ってきたことにより、国際レース招聘など様々な事業を行ってきたが、今後の活動に向け更なる支援企業の発掘に努める。

②ポストオリンピックを見据えた取り組み

「日の丸セーラーズ」をご支援いただいているこれらの企業と、2020 以降も良好な関係を保つことができるよう、新たな方策を模索する。

＜（７）オリンピックテストイベント・ワールドカップ・各種国際大会の成功

①レースオフィシャルズの確保と育成

オリンピックを控え、ますます真剣かつ神経質になる事が予想される来場する選手達が、実力を発揮し満足したレースが出来るよう、経験を積んだレースオフィシャルズやボランティアを確保し、更なるレベルアップして 2020 に備えられるよう、陣容の確保・育成が最大の課題である。

②外洋メンバーとの協働

2024 年のオリンピック種目を見据え、外洋キールボートメンバーにも積極的に活動への参加を呼び掛けていく

<（８）セーリングスポーツに関わる国際人の養成＞

国内で開催される様々な国際レースのレガシーとして、国際的に活躍できるセーリングスポーツに関わる国際人を養成する。

## 【外洋艇推進グループ】

### 外洋常任委員会　（委員長：馬場　益弘）

１．外洋艇推進グループ内の会議開催

（１）外洋加盟団体長会議を開催する。（年２回予定　９月、１月）

（２）外洋常任委員会を開催する。　　（年６回予定　適時）

（３）外洋専門委員会合同会議を支援する。

２．外洋艇登録の管理

（１）３０年度に継続して外洋艇登録情報開示艇数の増加を図り、開示することによる登録艇数の拡大を期待するとともに外洋専門委員会の活動を援助する。

（２）艇登録証の加盟団体からの発行システムについて管理する。

３．外洋に関する情報の発信

（１）引き続き外洋のホームページを運営して、会員に情報を発信する。

４．オリンピック・世界選手権への対応
（１）委員会内にオリンピック推進小委員会を設置し、新たにオリンピック種目となったオフショアレースに対応する体制を確立する。
（２）オリンピック関係委員会と連携し、外洋に特化した部分について協議、決定する。
（３）2019 世界選手権に向け、選手選考基準、選考方法を早急に確立する。

## 外洋計測委員会　（委員長：吉田豊）

MNA（メンバーオブナショナルオーソリティ）として WS.が公認する外洋艇のレーティングシステムの維持、管理及び国内における運用ルールを定める。同時に WS.が定める「ERS」との統一した運用に考慮する。
１．レーティングによるフリートの分散を避けるため、当面の間、現在の JSAF 外洋艇のメインレーティングを「IRC」として、「ORC」はその計測及び運用の技術の維持を目的とする。具体的業務は「IRC」、「ORC」それぞれの小委員会にて行う。（１－６大型艇レースの活性化）
２．「IRC」、「ORC」それぞれの委員会は財政的にバランスするように努力することを推奨する。
３．国内における経験則レーティングとして「パフォーマンスハンディキャップ」小委員会を定め、レース参加艇の底辺を支えるオープンレースにおいて公平で競いがいのある「PHRF」の運用を、小委員会各位のもとで提供する。（１－１セーリングフアンの開拓）
４．外洋計測委員会としての会議を適宜行い、各小委員会における問題点及び意思の統一を図る。
５．外洋合同委員会会議への参加。年度の初めに外洋のレース、計測、安全、ルール委員会が招集され、新年度の国際ルール及び国内ルールとその運用について報告する。
６．JSAF 常任委員会、及び各専門委員会への参加。

## IRC 委員会（委員長：川合紀行）

ＩＲＣ委員会事業計画
JSAF 運営規則　別表３．委員会業務に基づき、IRC 委員会の目的、業務、組織および運営を定め、委員会事業を行っています。「IRC 委員会 RC 委員会の目的、業務、組織および運営」別途添付致します。又、IRC 証書の有効期限は、西暦で行われていますので、2018 年の４月～12 月 12 日現在の中間決算報告書も　別途添付致します。為替の変動にもよりますが、毎年 IRC 委員会内での収支のバランスを考えて予算作成しています。基本となる証書発行費用も添付致します。

実行計画
１．今期の登録数
日本の外洋レースへの導入を始めて今年度で 13 年目を迎える。　ほぼ　国内全ての地域で　IRC が導入された。　昨年度とくらべると、登録艇数、証書発行は若干減っている。委員会としては艇数・オーナー数・ヨット人口は減少傾向にあるが、　今期の登録数は３００艇と証書発行３５０枚を目標としたい。（２０１８年度の証書発行、２７０艇　３２５枚）

今後もIRCレーティングシステムの一層の普及と拡充、そして　利用会員の利便性を増進して、引き続き委員会としての業務を継続し、これを更に展開する。

２．IRC普及活動

国内でのIRCルールの利用普及のために　各地で開催されるレースについてIRC委員会として継続的に支援する。

３．国内で行なわれる主要規格レースへの支援

今年度もジャパンカップをはじめ、全日本レベルのレース等に要請があれば　ＩＲＣ委員の派遣を含めて支援(計測技術)を行う。

４．国際会議への参加

IRCコングレスにも　引き続き委員を派遣して、国際的な活動でも貢献する。

５．JSAF専門委員会会議への参加

各専門委員会からの参加要請があれば、メンバーを人選して参加する。

６．外洋合同委員会会議への参加

外洋のレース・計測・安全・ルール委員会が集まり、合同で会議を行う。

（2019年2月は福岡で行われるが、2020年の開催場所は未定）

IRCコングレスの報告とルールの変更点の解説　及び　その運用と計測組織についての説明。

併せて、参加加盟団体の代表者や計測員からの質問を受け、要望や意見の聞き取りを行う。

その他事業計画

１．IRC委員会会議

IRC委員会会議は毎年１回から２回開催していたが、今期より委員が集まる外洋同委員会会議時に行うこととしたい。業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈、計測員の認定、国際会議の報告等を行う。参加者は10～15名。

２．次年度（2020）IRC委員会準備検討会

主要委員にてコングレス報告、ルールの解釈他、次年度に向けての準備会議を行う。１１月末か１２月初めに蒲郡で行う。

３．計測機材の維持

計側機材についてはＪＳＡＦで、５トン・１２トン・２０トンの３機種を保有して運用している。それぞれの重量計の定期的なキャリブレーションを順次イギリスに送り実施する。

４．IRCオーナーズ協会からの普及活動

IRCオーナーズ協会会長は平井会長から永松氏への交代予定。IRC委員会としては　引き続きIRCの普及のために　ＩＲＣオーナーズ協会と協力して各地のレースへのＩＲＣ採用を働きかけるとともに普及活動を活発化する。

## ORC委員会（委員長：吉田豊）

ORC委員会事業計画

１．ORC委員会

（1）世界で最も支持されている ORC レーティングシステムの管理と発給を行い、このレーティングシステムの業務を管理している。

（2）委員会の組織は、計算室、事務局、計測員等の 11 名で構成している。

（3）世界では、今年度の発給数で 9500 隻を超えて、発給数は伸びている。　国内でも沖縄での ORCC を採用したレースが始まり、その数は増加した。昨年度の登録艇数は約 60 隻に対して 64 枚の発給数であった。ORC レーティングシステムの一層の普及と拡充、そして、利用会員の利便性を増進して、引き続き、切れ目なく業務を継続し、ユーザーの期待に応えたい。

（4）今年度は、国内の発給数を 100 隻超えることを目標としたい。

（5）昨年度は、オランダのハーグで行われた ORC、IRC 合同の世界選手権に 3 名の派遣をした。ORC の関係者との情報交換もあり、TC 業務も体験出来て、非常に有意義だった。

（6）予算に関しては　今年度も　ORCC の拡充を図るのに必要な経費は存在する。但し、引き続き、収入と支出のバランスを図ることに取り組む。

2．ORC レーティングの実績（証書発行）

2016 年度　ORCC　55 艇　ORCI　5 隻

2017 年度　ORCC　44 隻　ORCI　5 隻

2018 年度　ORCC　57 隻　ORC-I　3 隻

3．ORC 普及活動

（1）昨年度に　沖縄で実施した計測講習会を　今年度は　関東と九州で実施したい。また　沖縄の ORC についても引き続き　バックアップする。

（2）国内での ORC ルールの利用普及のために　各地で開催されるレースについて ORC 委員会として継続的に支援する。

（3）今期は、ORCC の計測員の増員のために、計測員養成を目的にした講習会を開催したい。ORC を採用する加盟団体には、適切に協力を行いたい。

（4）レースの成績算出ソフトでは RMP のシステムの完成と普及を進めたい。今期は、実際に使ってみてバグも出たので、これを改善して、各加盟団体やクラブに配布をする。

4．国際会議への参加

ORC コングレスにも、技術委員の高垣氏を派遣して、国際的な活動でも貢献する。ISAF 総会には今年度も ORC 委員副委員長の小林　昇氏を国際委員会と共同して派遣を継続したい。

5．ORC 委員会会議

ORC 委員会会議を年間に 1～2 回程度開催したい。業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈、計測員の認定、国際会議の報告、等を行う。参加者は８名程度を予定。

## 外洋安全委員会　（委員長：大坪明）

**実行計画１．セーリング・スポーツの普及、発展と安全確保**

**＜（6）セーフティーセーリングの推進＞**

1．外洋特別規定（Offshore Special Regulations）普及

（1）World Sailing の Offshore Special Regulations の翻訳と国内規定策定＜継続＞

・全文翻訳集の販売＜新規＞
（２）外洋特別規定解説講習会の実施および講師派遣＜継続＞
（３）SNS などを利用した内容解説。＜継続＞
２．安全航行啓蒙
（１）安全週間の実施＜継続＞
・春と秋の 2 回、安全週間を設け安全航行に対する意識の向上を図る。
（２）安全講習会への講師派遣＜継続＞
（３）安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ＜継続＞
・無線機器の使用認可や通信費用の低減などの働きかけ、など。
（４）船舶安全航行に関わる情報収集および発進＜継続＞
・海難防止強調運動委員活動（海難防止協会）、など
・外洋安全委員会ホームページ、フェイスブックの運営。加盟団体担当者へメール送付など
（５）事故報告書（外洋艇関係）の収集/分析、事故予防に関する情報発信＜新規＞

**その他事業計画**

３．外洋合同委員会会議の開催＜継続＞
・外洋レースの全国均一化を図るために、加盟団体への情報提供の場として関係委員会と合同にて会議を開催する。
４．無線局の普及
（１）無線海岸局の管理
・海岸局（71ch・74ch）の開設認可＜継続＞
・JSAF 登録艇以外の船舶局（71ch・74ch）の加入認可＜継続＞
（２）無線船舶局の普及
・無線免許取得の補助（民間業者とタイアップして免許取得講習会費用割引）＜継続＞

### アメリカズカップ委員会　（委員長：植松眞）

1. アメリカズカップへの調査･研究
アメリカズカップへのチャレンジの可能性を探る活動を継続する。
2. 大型艇によるトップレースへのチャレンジの可能性を探る活動を継続する。

## 【障害者セーリング普及強化推進グループ】

### 障害者セーリング推進委員会　（委員長：高間　信行）

１．パラリンピックにおけるセーリング競技の復活
2028 パラリンピックでのセーリング競技の復活に繋げるため以下の活動を行う。
（１）2019 セーリングワールドカップ（江の島）での PARA 種目の成功を目指し、JSAF 加盟・特別加盟団体、実行委員会と連携をとり障がい者日本選手の参加増員に務め、障害者セーリング選手に

関する実行委員会の運営支援に協力する。

（２）2019 年パラワールドチャンピオンシップへの参加を JSAF 加盟・特別加盟団体へ働きかける。

（３）2019 年に行われるワールドセーリングの PDP（パラリンピック・デベロプメント・プログラム）への受講（選手・コーチ）の参加を加盟団体、特別加盟団体へ促す。

（４）2020 年パラワールドチャンピオンシップ日本開催を実現するために関係する JSAF 加盟・特別加盟団体、行政を含めた関係団体と連携を図り準備を進める。

（５）2019 年 PDP の日本開催に向け取り組む。

２．障がい者セーリングの普及推進

（１）JSAF の 5 普及・強化推進拠点（候補地）をコアに各水域に対する障がい者セーリング推進委員会への参画要請を行い、底辺を拡げる事に努める。

（２）障がい者セーリングへの理解を高めるために JSAF 加盟・特別加盟団体・委員会、会員、外部への広報活動を行う。

（３）JSAF ホームページに障がい者セーリングに関する事を情報提供ページに掲載活用し普及に努める。

（４）障がい者セーリングの発展振興、安全のため、障がい者セーリング行事運営について JSAF 加盟・特別加盟団体に向け研修を行う。

（５）全国障がい者スポーツ大会におけるセーリング競技の採用を実現するために開催地加盟団体等と連携を取り進める。スタートとして東京都障害者セーリング連盟と連携し東京都障害者スポーツ大会にオープン競技として若洲ヨット訓練所でセーリング競技を実現するよう働きかける。同時に全国に展開できるシステムを検討する。

（６）スペシャルオリンピックスへの対象の拡大検討を進めるうえで、基本的情報の収集と方針の策定案を検討する。

３．障がい者セーリングにおける強化推進

2019 年以降のパラワールドチャンピオンシップ、国際大会参加、2028 年パラリンピックに向け以下のことを行う。

・JSAF の 5 普及・強化推進拠点（候補地）から強化フリートの指定をする。

・パラワールド等における採用艇種の中から、強化種目を指定する。

・国際大会での順位向上を、関係する JSAF 加盟・特別加盟団体と連携して目指す。